

リサイクル活動とリンクした国際協力

～ 汗を流して、実感できる心の国際協力を目指して ～ 生徒会活動

北海道紋別郡西興部村立西興部中学校 研究代表者 倉田 忠彦先生
TEL 0158-87-2135 FAX 0158-87-2135

1. 活動のねらい

本校では生徒会活動の一環としてユニセフ募金に取り組んできた。環境問題にも取り組んできた生徒会長が「ただお金を寄付するのではなく、もっとみんなの心が伝わる形で募金したい」との声が上がった。生徒会の中心メンバーで協議をした結果、各家庭で使わなくなった物を持ち寄り、それをリサイクルショップで売り、そのお金を寄付するというものになった。

今回の活動は日頃から意見を出すだけでなく、行動もともにできる生徒の育成を目指したものを一環として行うことになった。生徒自身からユニセフについてもっと知りたいという好奇心を沸かせ、テレビ会議を使って学習する方向へ発展させていくものとした。

2. 活動計画

月	主 な 内 容
1	全校生徒に趣旨説明と協力の依頼 全校生徒から品物を持ち寄る（1週間の期間）
2・3	品物の仕分けとユニセフ職員へのメッセージ作成 ⇒仕分けたものを、長期休業を利用して売りに行った
4	テレビ会議にむけての事前準備 (質問内容をまとめる)
5・6	テレビ会議での学習会 (世界の現状を、直接経験された職員の方から聞く)
その他	地雷レプリカ、水瓶の実物を展示し、触れてもらいながら実感してもらう。 (1週間展示)

3. 実践

(1) リサイクルボランティアの活動

今までただ『お金を出す』といった感覚だったものがリサイクルと結びつけることで意識が上がり、興味や関心が高まった。そのことで次への活動につながりを持たすことができた。またリサイクルの活動ということもあったので物を大事にする心やエネルギー節約にも関心が高まり、電気をこまめに消すなどの広がりを見せた。

(2) 日本ユニセフ協会とのテレビ会議

まずは直接テレビ画面を通じて話しをするということに驚いていた。各学年によってねらいを明確にし、質問をした。

- 1年生：積極的に疑問に思ったことを質問しよう。
- 2年生：世界の現状を沢山聞き出そう。
- 3年生：ユニセフの職業に携わる方に「職業としての面」の質問をしよう。



リサイクル品の仕分けの様子



テレビ会議で日本ユニセフ協会の職員の質問にグループで討議する

日本ユニセフ協会の職員の方が上手に生徒から意見を引き出して頂いたおかげでおおむね、ねらいを達成することができた。特に本などを読んで学ぶのと違い、実際に現地で働かれた方が話しをして頂いたので、臨場感にあふれ、特に3年生は修学旅行でJICAを訪問してお話を職員や研修生との交流があったのでより深く理解をすることができた。

(3) 地雷・水瓶の展示

ほとんどの生徒が展示品を手にしていった。多くの生徒は地雷がどういう物か分かっていなかったのので、大きさ、形、爆発の方法、威力などを学び一様に驚きを表していた。また水瓶は水を入れて頭に乘せて自由に歩いていいことにした。力自慢の生徒が休み時間に挑戦したがあまりの重さに根をあげる一幕もあった。

4. アンケート

1年生男子

『こっちは薬もあるし、学校は毎日行っているけどあっちは薬もないし、大変だと感じた。こっちは靴があるが、あっちは裸足というのがびっくりした』

1年生女子（今後自分が出来ることは何だと思えますか、との質問に対し）

好き嫌いをしないでなるべく食べる。
水や電気、お金の無駄遣いをしない。
貧しい人たちの状況をもっと知る。



質問する様子

2年生女子

『学校に行けることが当たり前だと思っていたけど、行くことができない子供もいることがわかったので私は苦手な勉強も頑張りたいと思います。当たり前と思っていたことが当たり前ではない国が沢山あることがわかった』

3年生（この企画を考えた生徒）

『日本は恵まれていて、今この瞬間をありがたいと思わないと途上国の人に失礼だと思った。3秒に一人の子供が死んでしまっている、というのはすごく悲しいことだし、もし生きていられたら楽しいこととか待っていたと思うし、もしかしたらどこかで出会って友達になれているかもしれないから、死なないでほしい、と思った。自分の出来ることをしていきたいと思う。三上さん（日本ユニセフ協会職員）も言っていたように、今の現状をいろいろな人に伝えていく。』

5. 成果と課題

今回の研究では直接自分の手を動かしたり、触れたり、聞いたりしたことで例年以上に興味や関心を生徒に持たせ活動に取り組むことができた。生徒会を中心に活動をしたので「やらされている」というより自分たちが直接携わったという達成感を持たすことができた。

中学生はリーフレットを見れば大体のことはわかるのが、今後はテレビ会議を利用しより具体的な視点で質問し、深めていく必要がある。本校は生徒数も32名と少なかったので全校の活動としてより磨かれた実践をしなければならない。